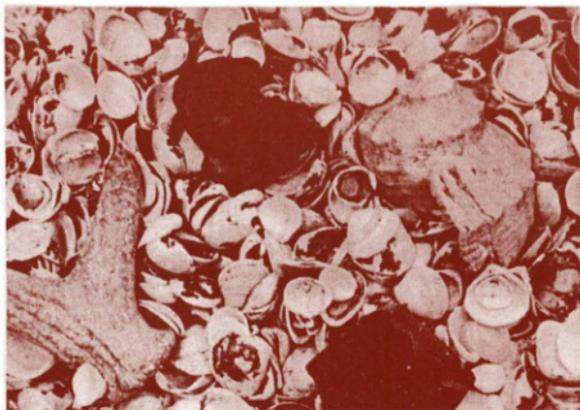


涌谷町埋蔵文化財調査報告書2

長 根 貝 塚

—平成8年度涌谷地区（モデル）
宮農飲雑用水施設整備工事に伴う発掘調査—



宮城県涌谷町教育委員会





昭和43年の発掘調査
(手前が第2号竪穴式住居跡)

序

国史跡長根貝塚は、昭和43年に発掘調査が行われ、住居跡2棟等が発見されました。完全な形で発見された縄文時代の住居跡としては、県内で初めてという画期的な成果を上げることができました。遺跡は調査後埋め戻して草地とし、遺跡の標柱と案内板が現地に建てられました。

平成8年度に、当地が水道管埋設工事の範囲内となり、それに伴って再び発掘調査が実施されました。今回の調査は、水道管埋設のための溝状の掘削溝に沿って行われたもので、調査範囲が限定され、調査規模は小さいものでした。

一方当該工事は広い範囲にわたっていたので、工事範囲内には長根貝塚の他長根新田遺跡、長根窯跡が含まれることとなったのですが、調査の結果、いずれも遺物の出土をみることはありませんでした。

調査対象面積の広さからみる実際の遺物出土域は狭かったものの、それぞれの遺跡の遺物散布状況が明らかになりました。

最後に、調査によりご不便をおかけした史跡内の民家の方々はじめ、発掘調査並びに当報告書作成のためご協力いただいた皆様へ、謹んで御礼申し上げます。

平成9年3月

宮城県涌谷町教育委員会

教育長 木村 達夫

例 言

1. 本書は平成8年度涌谷地区（モデル）営農飲雑用水施設整備工事に伴って実施された、国史跡長根貝塚の発掘調査及び長根新田遺跡、長根窯跡の立ち会い調査の報告書である。

2. 本調査の調査体制は次のとおりである。

調査主体：涌谷町教育委員会

事務局：農業基盤整備室、社会教育課

調査担当者：社会教育課学芸員 伊丹早苗

資料整理・本書の執筆・編集：同 上

3. 発掘調査並びに報告書の作成にあたり、次の方々からご指導を賜った。記して感謝する。

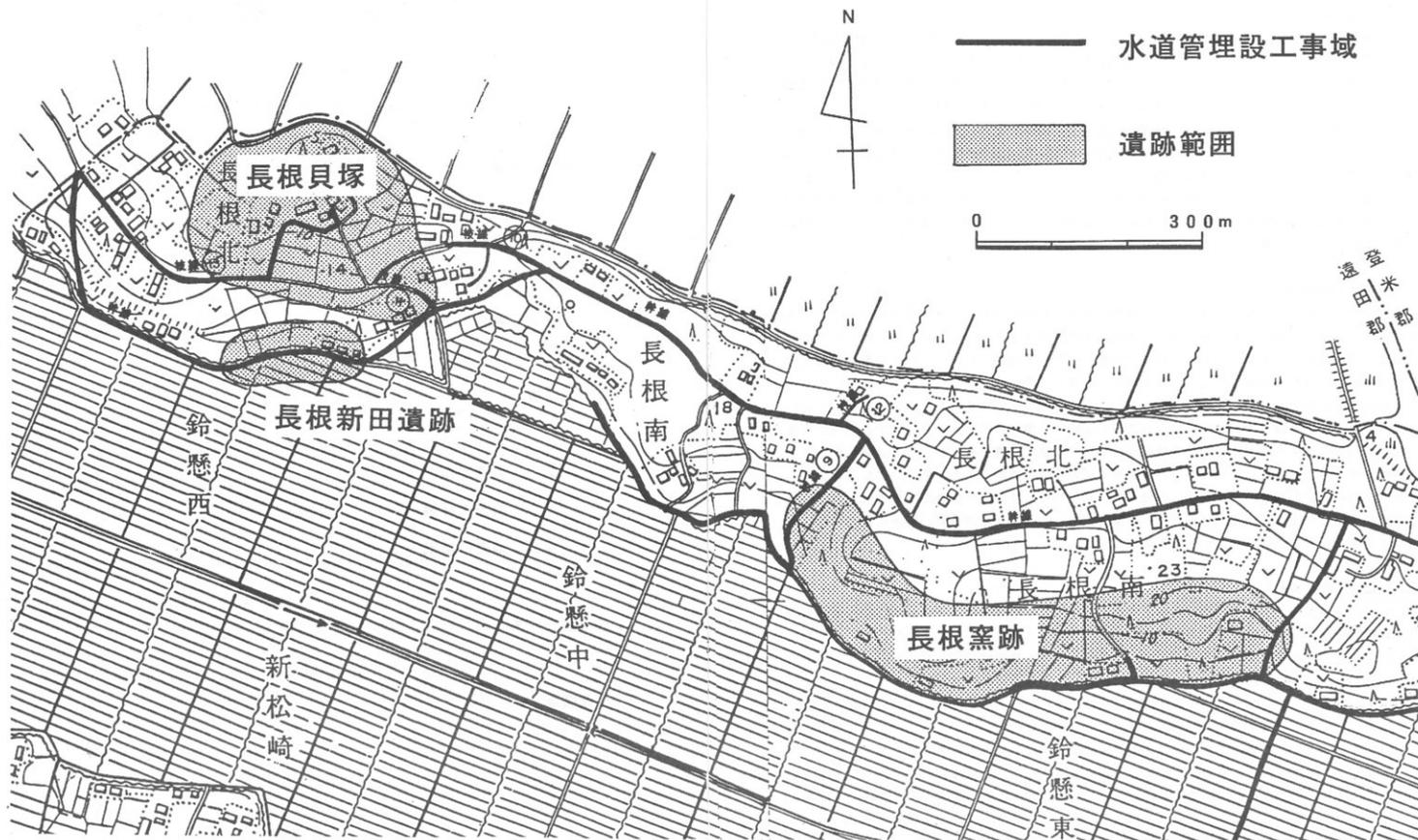
宮城県教育庁文化財保護課、東北歴史資料館、加藤道男、阿部博志、阿部恵、須田良平、大沼恵美子（敬称略）

4. 本調査によって得られた資料、測量図面等は全て涌谷町教育委員会が保管している。

目 次

I 調査の経過	3
§ 1. 遺跡の位置	
§ 2. 過去の発掘調査	
§ 3. 調査に至る経緯	
II 調査	7
§ 1. 調査要項	
§ 2. 調査の経過	
§ 3. 調査の結果	
III 調査のまとめ	10
写真図版	11

第1図 遺跡配置図



I 調査の経過

§ 1. 遺跡の位置

国史跡長根貝塚は、宮城県遠田郡涌谷町小里字長根地内にあり、地形的には西隣する田尻町の大貫丘陵から東方へ、南北約300mの幅で東西に舌状に長く伸びた丘陵上に位置する。丘陵の三方は水田で囲まれている。この丘陵のすぐ北には旧迫川が流れ、南には箕岳丘陵があり、その北斜面に分布するツナギの沢貝塚や松崎貝塚等が水田を挟んで長根貝塚と向き合っている。

長根貝塚のある丘陵には、そのすぐ南斜面に長根新田遺跡、東6~7kmの南斜面に長根窯跡があり、両者とも今回調査対象となった。この丘陵を西の田尻町側へたどると大森遺跡、中沢貝塚、恵比須田遺跡を始めとして多くの縄文遺跡が分布する。

また周囲の水田のうち南側は、昭和の始め頃までは沼地だったので、干拓後の現在も水捌けは悪く、深く掘ると湧水する。海進現象の顕著だった縄文時代には、遺跡のある丘陵は沼や湿地帯に囲まれた島だった可能性が高い。

§ 2. 過去の発掘調査

昭和43年、長根貝塚に開田が及ぶことが契機となり、宮城県教育委員会と東北大学文学部考古学研究室によって発掘調査が行われた。その結果竪穴式住居2棟が検出された。これは完全な形で出土した縄文時代のものとしては宮城県で最初だった。遺跡の年代は、早期から晩期までと年代幅は広いが、当時の調査で発見された土器は、中期の大木6式~大木10式に限られた。

また長根新田遺跡は、長根貝塚の南を通る町道以南に位置し、両者は同じ遺跡と認識して良いだろう。現在は主に畑地で、その土中から長根貝塚同様の遺物が出土したというが、調査が実施されたことはない。今回の工事は当遺跡の南端に沿う道路に実施されたが、全く遺物の出土はなく、湧水する粘土層のみ見られたので、道路は遺跡の範囲外であることが明らかになった。

長根窯跡は、昭和45年道路工事中に見えられ、46~48年に計3回の調査が実施された。その結果8~10世紀に比定される窯跡6基が調査を受けた。今回の工事は調査済の箇所は範囲に入っておらず、また新たな遺構を発見することもなかった。

§ 3. 調査に至る経緯

このほどの調査は、農林水産省の補助事業である平成8年度涌谷地区(モデル)営農兼用水施設整備工事に伴って実施された。これはこれまで井戸水より給水していた長根地区に水道を敷設する事業である。実際の工事は、水道管を埋設するために溝状に掘削していくというものである。工事箇所には、国史跡長根貝塚、長根新田遺跡、長根窯跡があり調査対象となった。

工事の問題点は、国史跡内にある3件の民家への給水のため、史跡内の工事が余儀なくされたことである。表土には既に遺物の散布がみられたが、水道といういわばライフラインに関わるものなので工事の中止はできなく、宮城県文化財保護課と数度にわたる協議によって、当初の設計を一部変更し、掘削の深さも極力抑えることにより実施された。また発掘調査は完全な民地内でも行われたので、当家の方々にはご不便もおかけした。一方長根新田遺跡、長根窯跡では遺物の検出を見なかったため、これらは立ち会い調査で終わり、発掘調査は長根貝塚のみ行った。

Ⅱ 調 査

§ 1. 調査要項

遺 跡 名	長 根 貝 塚	長根新田遺跡	長 根 窯 跡
所 在 地	宮城県遠田郡涌谷町小里字長根北地内	同小里字長根南地内	同 左
調 査 期 間	A区 立ち会い調査：平成9年1月17日 B区 平成8年8月5日～8月23日 C区 試掘：平成8年9月10日 調査：平成8年9月17日～20日 D区 平成8年12月5日～7日 E区 立ち会い調査：平成8年12月9日	平成8年9月10日 (立ち会い調査)	平成8年11月12日 (立ち会い調査)
調 査 参 加 者	難波さゆり、百々良雄、百々義家、野村貞子、日下あけみ、佐藤由香、伊藤秀子、練生川洋子、今野裕子、大井千恵子、高橋真理、佐々木義明、門間千秋		

§ 2. 調査の経過

① 長根貝塚

発掘は表土に土器の散布が見られたB区から開始した。西端から掘り始めたところ、西側では下層より上層、東へゆくほど上層より下層に遺物量が増したが、西端から20m付近で全く出土しなくなった。土器片は下層の方が幾分大きい。遺物の出土が見られなくなった辺りで手掘り作業を止め、重機による掘削に切り換えた。

B区西端から直角に南へ折れ曲がって伸びるのがC区である。C区の遺物包含層は、南へいくほど浅くなり、B区との境から約20mでなくなった。北端から調査を開始したが、B区同様、遺物の出土を見る区域は手掘りで、遺物のない南部は重機を使用した。

D区は史跡範囲外である西端から調査した。試掘により、場所によって遺物が出土したりしなかったりすることがわかっていたので、重機を用いながら少しづつ掘り下げた。遺物は史跡の境界付近と、C区へ折れ曲がる地点より西30m～40m付近の2か所で見られた。

E区北側は過去に防火水槽の設置工事が施工されたので、重機により水槽の掘り方に沿って掘削した。防火水槽の南側は初めて調査が及んだが、遺物は全く見られなかった。

F区は史跡外であるが、史跡隣接地なので試掘したところ遺物の出土はなかった。

最後にA区を調査したが、A区はB区東端から北へ向かう区域である。ここは遺物が出土しなくなったB区東側の土層が続き、遺物の出土もなかったので重機により掘削した。

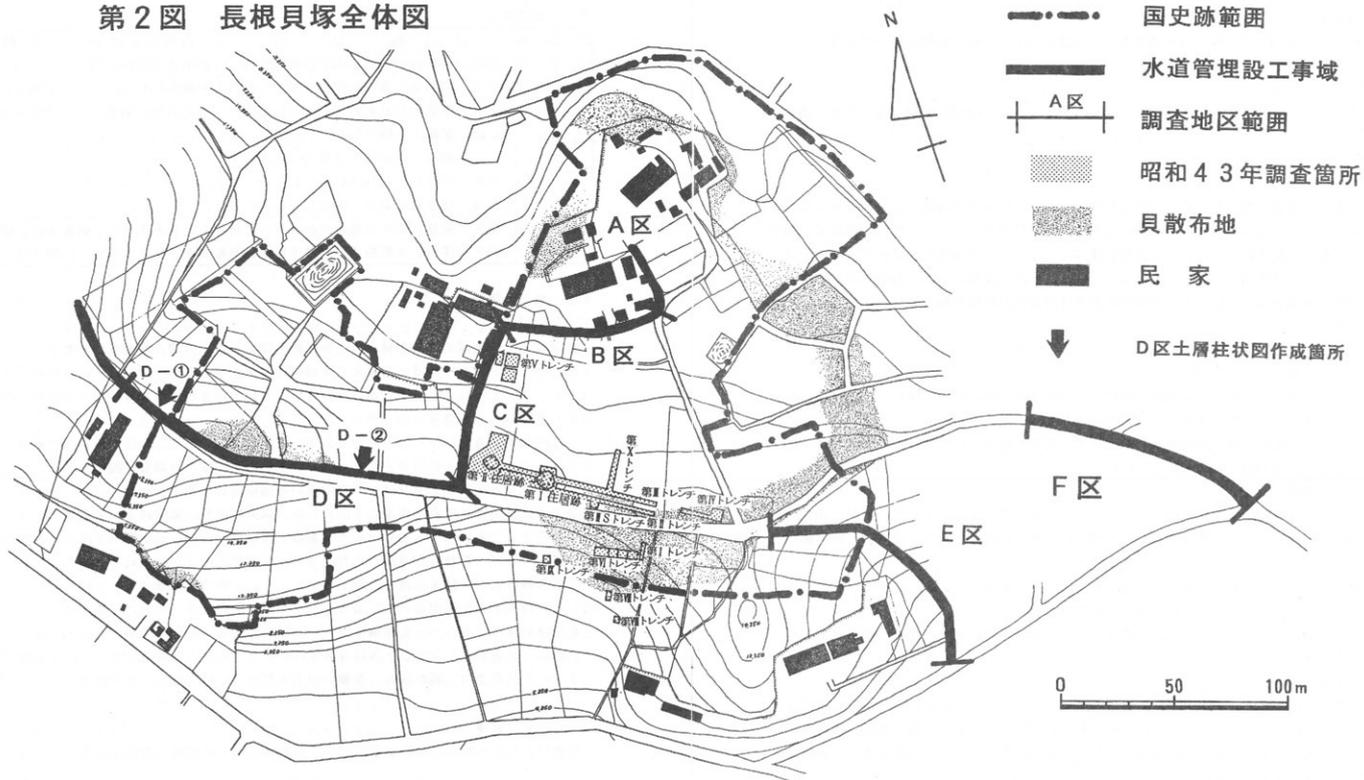
② 長根新田遺跡

重機により20～30mおきに試掘したが、湧水する粘土層が続き遺物は出土しなかった。

③ 長根窯跡

長根新田遺跡同様に重機にて試掘したが、遺物の出土は見られなかったので、立ち会い調査のみで終了した。

第2図 長根貝塚全体図



§ 3. 調査の結果

長根貝塚

遺物が出土したのは、B、C、D区の3地区である。明確に遺構と確認できたのは、B区の土城1基のみである。

掘削の幅は全て60cmだが、深さは水道管が太い本線は140cm、細い枝線は60cmである。

A区（掘削深度：60cm）

南側は表土下は淡黄色の粘土層、北へゆくと粘土層がなくなり暗褐色土層になったが、遺物の出土はなかった。

B区（掘削深度：60cm）

調査前、表土に土器の散布が見られた区域なので、本調査の最重要区域と認識し調査に及んだ。しかし西端から3～7mの上層40～50cmは、遺物を含むものの現代のゴミも混じる攪乱層と判明した。だが下層には長さ約2mにわたる貝層が検出した。それより東側は、土層の変化も少なく水平堆積しており、遺物包含層と考えられる。貝層の貝を除く遺物は土器、石器だが、中央付近から東は遺物量も減少し、土城1より東側の表土下は淡黄色の良質の粘土層が検出し、遺物は全く出土しなくなった。

① 発見された遺構

土城1 B区東よりの箇所、掘削溝の南壁に半分程度埋もれた状況で検出した。上層は殆ど遺物が出土しなくなっており、重機による掘削に切り換えて間もなくのことだった。検出面は表土下約40cmだが、土城の上部20cm程度しか検出せず、完全に掘りあげなかったので深さは不明である。遺物は検出した範囲では出土していない。

② 発見された遺物

西で検出した貝層を構成する貝の殆どはヤマトシジミで、ごくまれにオオタニシが含まれていた。その他に同定できた骨としてイノシシの下顎骨、マグロの椎骨、タヌキの頭骨、鹿、鯉の骨等が出土した。

土器は西ほど古く、大木8a、大木8bを主に大木7～大木9に比定される。東は主に大木9に代表される。いずれも破片で、完形土器は出土しなかった。

石器では石鏃2点、スクレーパー3点、ポイントもしくはスクレーパー片1点等が出土した。

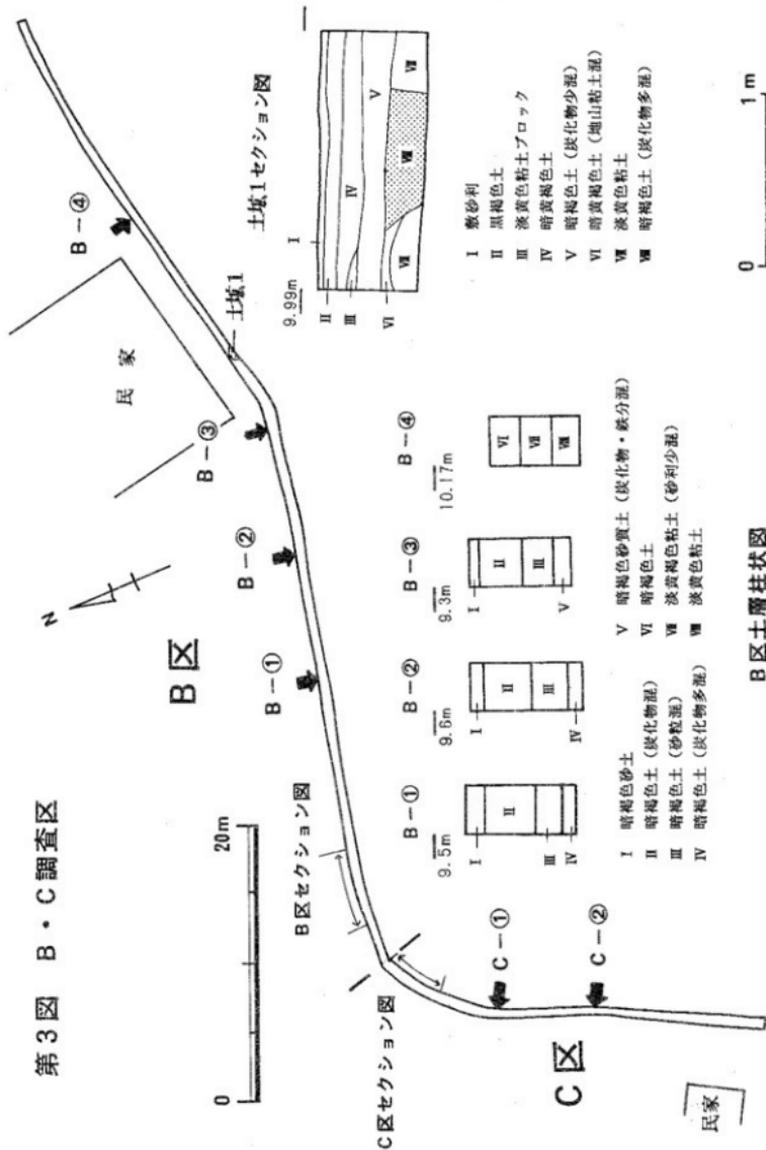
C区（掘削深度：60cm）

B区から続くC区北端で、表土下1mで貝層が出土した。だがこの付近は排水用の土管が埋設しており、貝層上部は削平されている。貝は殆どヤマトシジミである。白鳥、魚類、哺乳動物の骨も含まれた。南へゆくほど遺物包含層は浅くなり、20m程度進んだ箇所まで消滅する。遺物は全体に均一に出土するが遺構の検出はない。

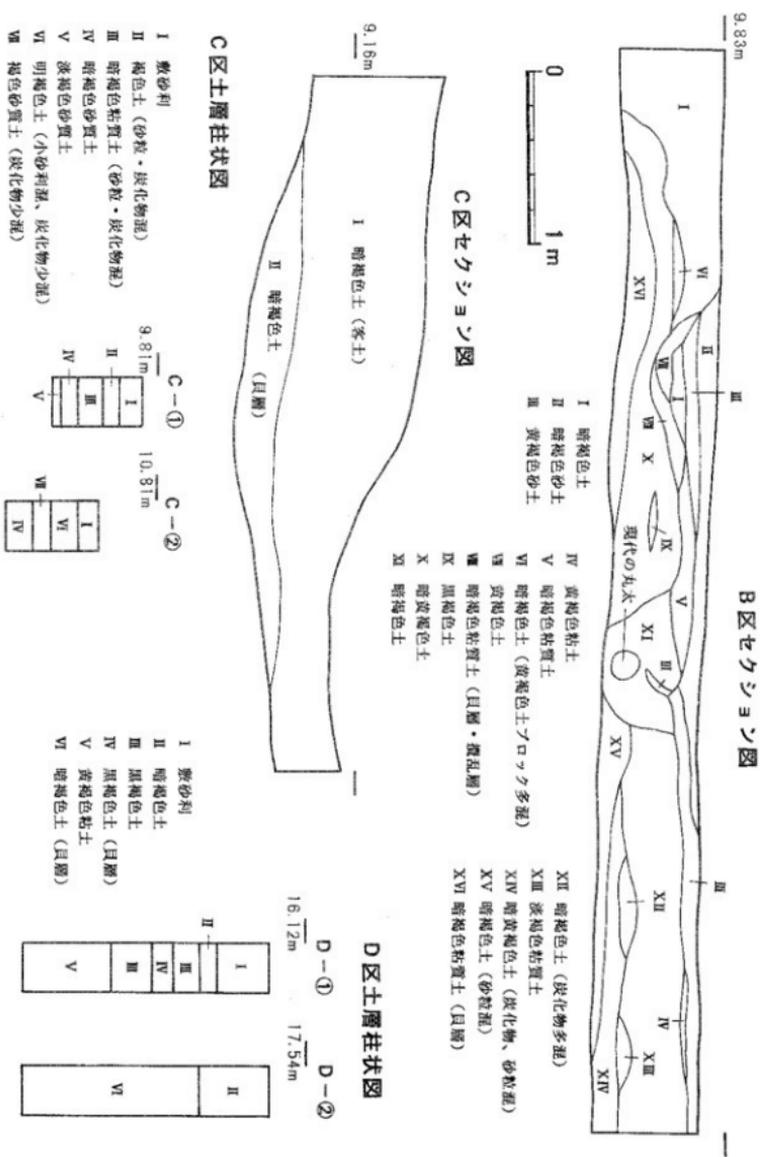
土器は大木8aと大木8bを中心に大木7～9にわたっている。この地区では、完形土器1点を含むある程度復元できる土器が何点も見られた。

出土した主な石器は石鏃1点、スクレーパー3点、石錐1点などである。

第3図 B・C調査区



第4図 B・C・D調査区



D区（掘削深度：140cm）

史跡外で表土下55cm、厚さ12～3cm、長さ約4mにわたり貝層が検出した。貝層はB・C区と異なり種類に富み、ヤマトシジミは少なくオキシジミ、アカ貝、ハマグリ、カキ、ヌマ貝等で構成されている。また貝層以外からも鹿、鹿の角、白鳥、イノシシなどの骨が出土した。

土器はC区同様大きめの破片で完形土器1点が出土したが、その多くが後期に比定される。土製品として直径2.5cmの耳飾り1点が発見された。

E区（掘削深度：史跡内80cm、史跡外100cm）

北西部については平成4年、防火水槽を設置した時の掘削範囲内で工事を実施した。それに続く場所は、表土下約50cmが盛土で、下層についても遺物の検出はなかった。

F区（掘削深度：140cm）

史跡外だが、史跡の隣接地なので調査した。西半部の表土下は黄褐色粘土、東半部の表土下は灰褐色土で、いずれも遺物の出土はなかった。

長根新田遺跡・長根窯跡

いずれも遺物の出土はなく、立ち会い調査のみ実施した。

長根新田遺跡：遺跡の中心は道路より北側の丘陵南斜面の畑地であり、当工事の対象となった町道は、湿地性の土層で、舗装の敷砂利下は東は暗褐色土で西で黄褐色粘土、グライ化した箇所もあり、全体に湧水した。

長根窯跡：当該工事は当遺跡の外周圏に及んだ。丘陵斜面上層は主に耕作土で、下層は黄褐色粘土が分布していた。丘陵頂上部の表土下は暗褐色土だったが、いずれも遺物は全く出土しなかった。

III 調査のまとめ

今回の調査は、水平方向にも垂直方向にも非常に限定された範囲内での調査だったので、長根貝塚については昭和43年の調査結果に付け加えるべき新たな発見はなく、貝層分布、貝層を構成する貝、土器の年代など過去の調査結果に沿うものであった。遺物量はあったが、すべて攪乱層と遺物包含層からのもので、遺構はB区の土坑1基であった。遺構面に達するまでの深さを満たしなかったとも考えられる。

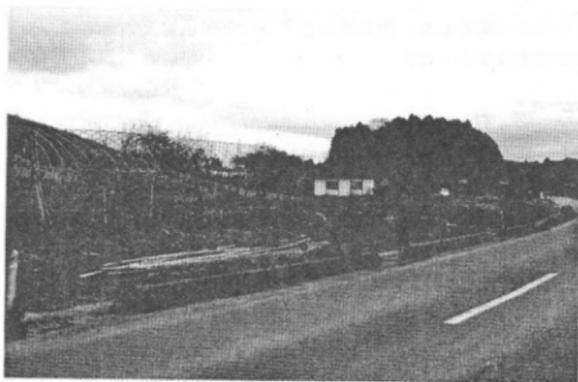
出土土器の年代は、B区西側からC区にかけて中期前半（大木7～8b）、B区東側が中期後半（大木9）、D区は後期に比定される。

B・C区の中期の貝層の貝は主にヤマトシジミであるのに対し、後期の貝層は多種に及び、時期による貝の種類の相違は、環境の変化を暗示させる。

また丘陵南端を通る町道は湧水性の粘質土であることがわかり、少なくとも長根新田遺跡、長根窯跡とも町道まで遺跡の範囲が及んでいないことが明らかになった。



長根貝塚（東から）

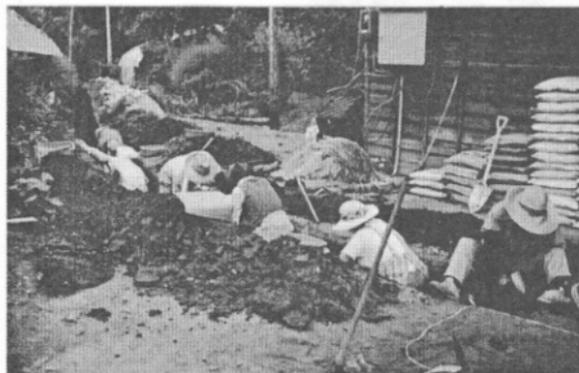


長根新田遺跡（西から）

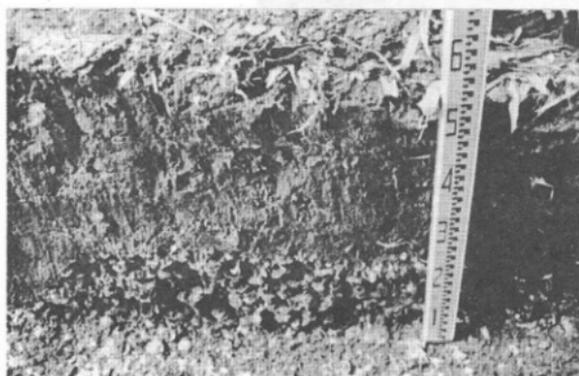


長根窯跡（南から）

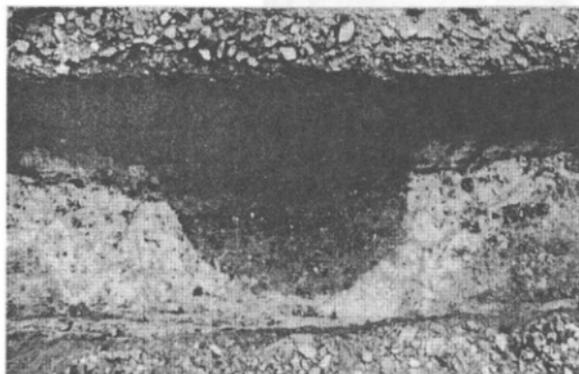
写真1 遺跡全景



B 区

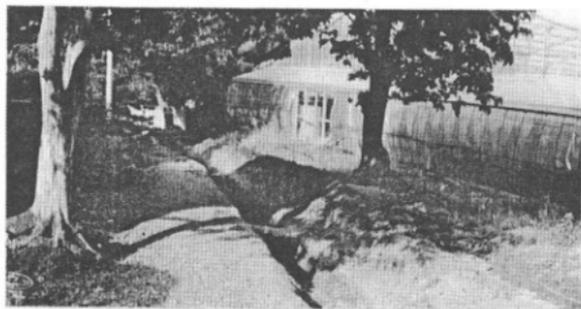


B区貝層出土状況



土坑1出土状況

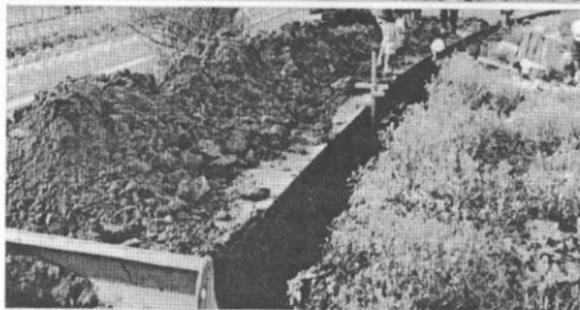
写真2 長根貝塚B区



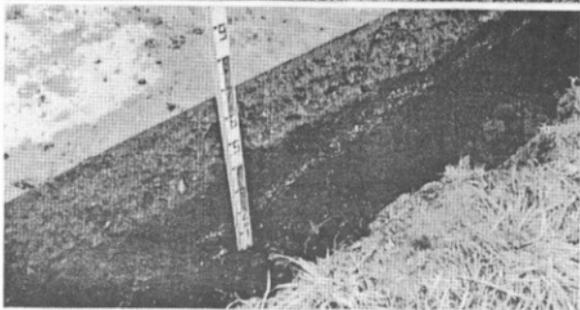
C 区



C区貝層出土状況

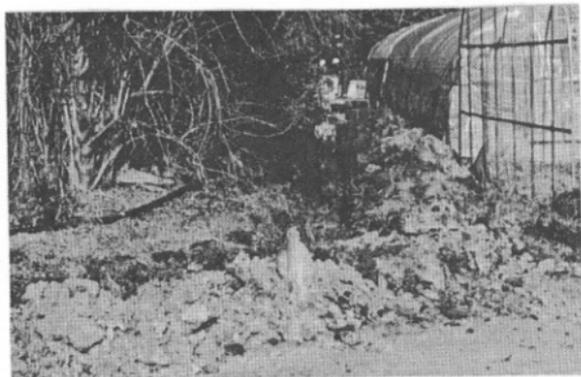


D 区



D区貝層出土状況

写真3 長根貝塚C・D区



A 区



E 区



F 区

写真4 長根貝塚A区・E区・F区

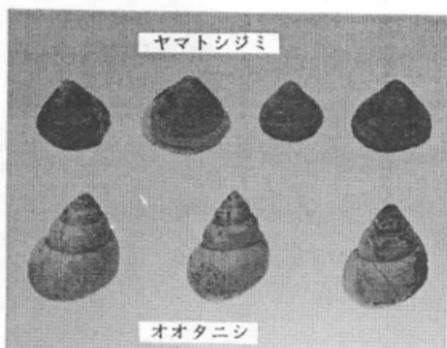
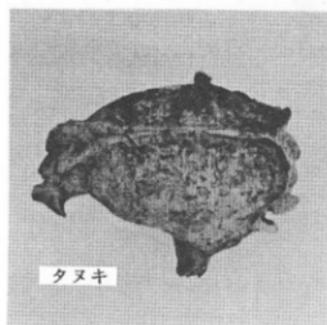
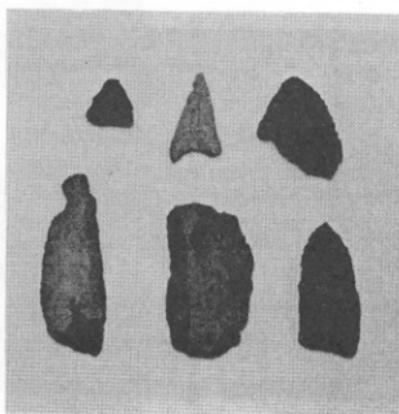
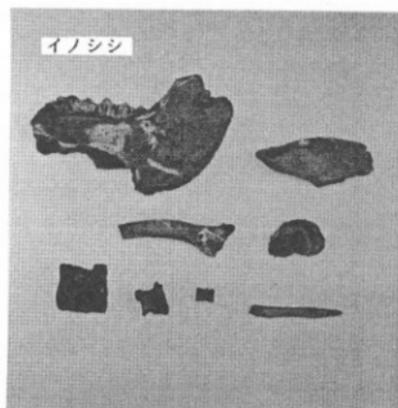
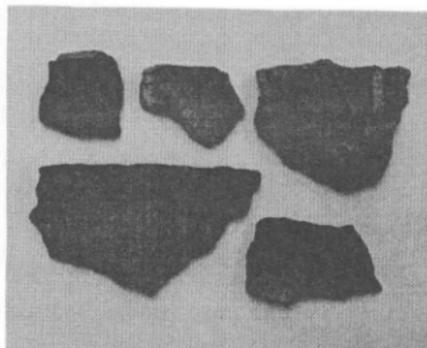
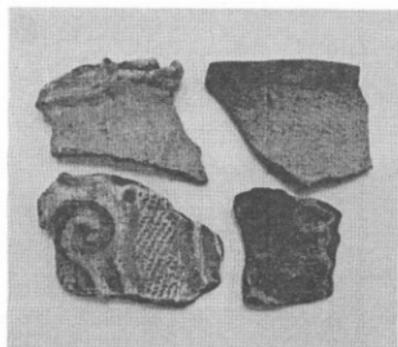
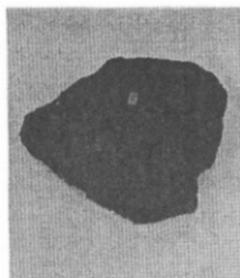
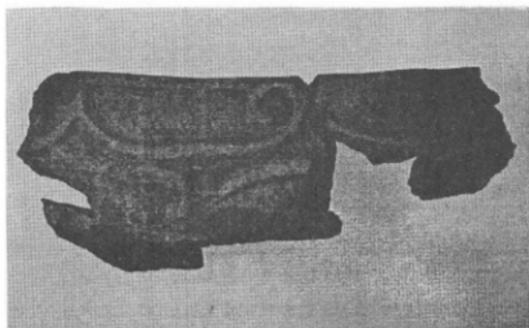
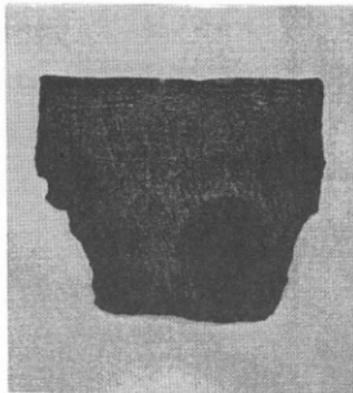
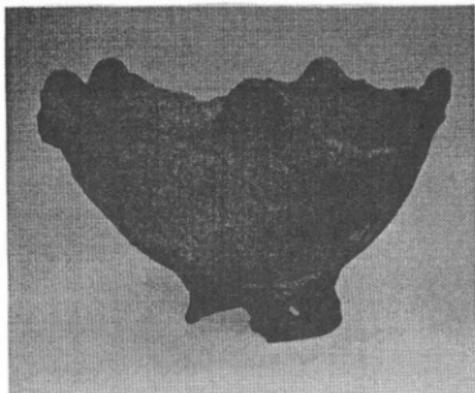


写真5 長根貝塚B区出土遺物



穿孔土器片

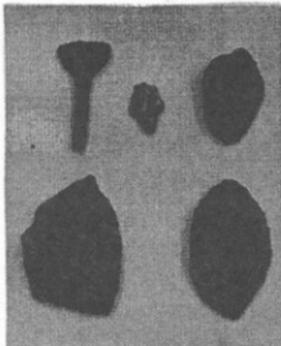
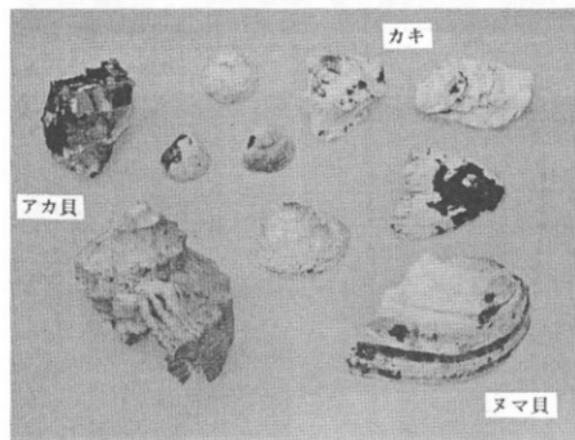
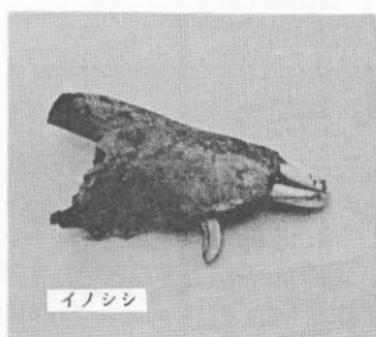
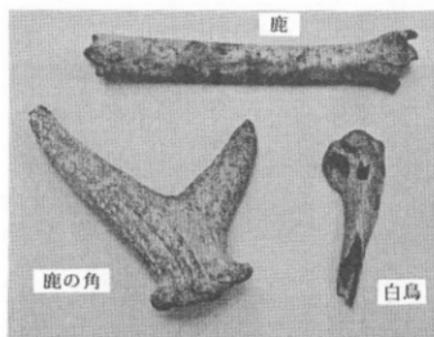
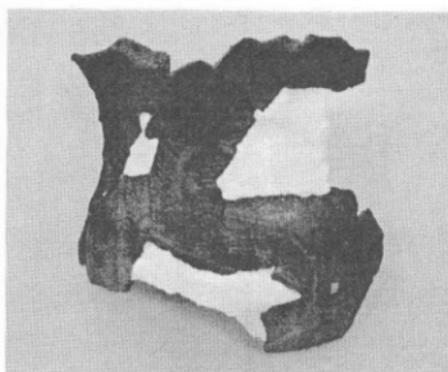


写真6 長根貝塚C区出土遺物



耳飾り

写真7 長根貝塚D区出土遺物

涌谷町埋蔵文化財調査報告書2

長 根 貝 塚

平成8年度涌谷地区（モデル）営農
飲雑用水施設整備工事に伴う発掘調査

平成9年3月31日

発 行 涌 谷 町

涌谷町教育委員会

987-01

宮城県遠田郡涌谷町字新町裏153-2

☎ 0229(43)2111

印 刷 今野印刷株式会社

